

して正式に
比嘉進さん
、2回のペ
による段位
人を除いた
「空手は沖
土かされ、
比嘉太一

手鍛え、普
をベースに
でいる。



短期生たち
＝8月29日
等に当たっ
進さん、
サポート
教の眞鶴
つるま市
月22日、
撮影)

同校で初めて空手を学んだ島袋慎一さん(28)は「空手を通して警察官としての思いやる心や気遣いも学ばせてもらっている。しっかりと空手を現場でも生かしたい」。県外出身で5歳から空手を稽古している池本夢実さん(23)は「2段」は「空手発祥の地で実践的な空手を学べることは貴重な経験にもなり自分の成長にもつながる」と話す。小学生の頃から空手をしている山川浩平さん(24)は「2段」は「空手は県警察学校独自の科目なのでとても学ぶことに意義がある。現場でも応用したい」と意気込んだ。

講師の新城さんは「警察官の卵たちはいずれ、犯人と向き合わなければならず県民を守らなければならぬ。空手を通して鍛えられているという裏付けがあれば業務でも必ず役に立つ」と強調。比嘉さんは「沖縄の文化である空手を通して県民のアイデンティティーを学んで仕事に挑んでほしい」と激励した。

當山校長は「柔・剣道同様に空手も継続して稽古に励んでほしい。『空手に先手なし』という言葉があるように犯人と向き合った際に間を取らなければならぬということもある。そのような意味でも空手は実務にもつながるので、しっかりと技術を習得してほしい」と話した。

訂正 1日付11面
「週刊沖縄空手」

の伊波清吉氏トーチ記念演武大会の記事で、ミシガン州「ライジング市」とあるのは「ランシング市」の誤りでした。おわびして訂正します。

道場めぐり

▷79

困難打破 心身を錬磨

■ 沖縄少林流拳真館空手古武道連盟総本部

喜瀬功範士十段

沖縄市胡屋。コザ中学校近くにある。初代館長は武士松村の流をくむ祖堅方範氏に師事した喜瀬富盛範士十段

(84)。1957年に沖縄少林流では最初に米軍基地内で空手の指導を始めたという。76年に拳真館を開設した。

一代目館長として96年から息子の喜瀬功範士十段(62)が空手と古武道の指導に当たっている。3歳から空手の道に入り、祖堅氏の西原町の道場や富盛氏の下、腕を磨いてきた。

稽古では型、古武道、組手とその日の参加メンバーに合わせて汗を流す。功氏は、空手と古武道を通して「芯の通った子に育ってほしい。難しいことから逃げない心、失敗に負けない心を養ってほしい」と願う。

型の分解も追求し、週1度は富盛氏が功氏に稽古をつける。功氏は指導とともに「まだまだ修行が足りない」と常に己を律し、心身の錬磨に努めている。

(フリーライター・たまきまさみ)



喜瀬功範士十段(左端)の下、稽古に励む門下生(沖縄市胡屋・沖縄少林流拳真館空手古武道連盟総本部(落合綾子撮影))

熱視線

喜瀬朝日さん(11)



祖父である喜瀬功範士十段(62)が空手の先生だった環境もあり、小学1年から空手を始めた。

最初は基本である腕立て伏

「突き」重ね苦手克服

得意の型「ワンスー」

せや組手が苦手だったが、前屈や突きの鍛錬を重ねるうち、4年生に上がるころに克服できた。功氏は、間違いをとがめることなく、理解できるまで指導してくれるという。

得意な型は「ワンスー」。白帯から緑帯になる境目に習得した。技を覚える空手の難しさを感じたという。現在2級。後輩へ気配りもしつつ鍛錬の日々は続く。(フリーライター・たまきまさみ)